

愛媛県 最新がん統計【2012】

罹患の概要

■ 最新集計について

集計の期間

罹患年月日が平成 24 (2012) 年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間。過去の罹患年についても再集計。

集計の時期

平成 28 (2015) 年 7 月現在

罹患年月日の決め方

- ① 届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする
- ② 届出がなく、死亡小票の写しによってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする

集計の対象

- ① ICD-0-3 分類の性状 2 (上皮内), 3 (悪性、浸潤性) で示される新生物

② DCO 例については、①に加えて、ICD-0-3 分類の性状 1 (良性・悪性の別不詳：例 悪性の明示のない〇〇腫瘍) で示される新生物による死亡で、部位が脳、肝、膵、腎、膀胱、肺

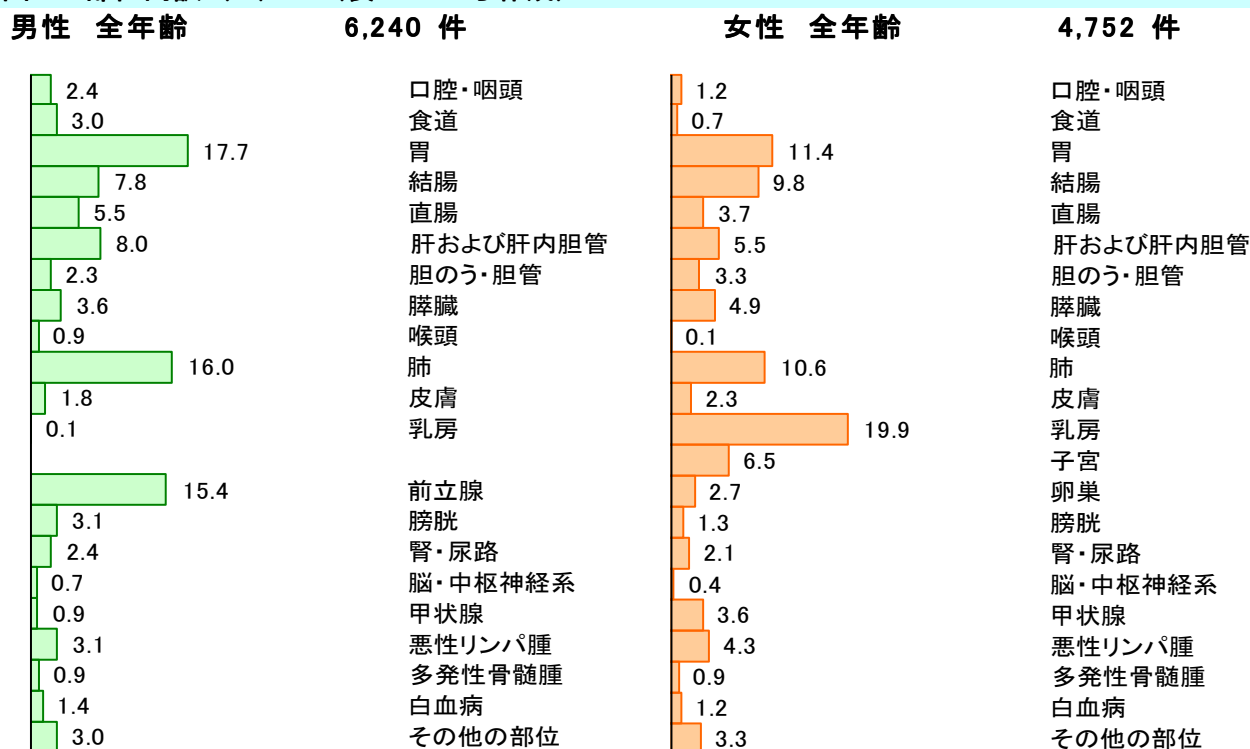
精度指標

DCN : 17.2%
 国際 DCO : 7.0%
 I/M : 2.39

■ 罹患の概要

2012 年に愛媛県において、男性延べ 6,240 件、女性延べ 4,752 件の、合計延べ 10,992 件のがんが、新たに診断された。男性で最も多いがんは胃がんであり、肺、前立腺、肝臓、結腸、直腸と続く。女性で最も多いがんは乳がんであり、胃、肺、結腸、子宮、肝臓と続く (図 1)。

図 1 部位内訳 (%) (表 1-A から作成)



年齢別に見たがんの罹患

年齢別にみると、2012年に新たに診断されたがんについて、男女とも罹患者の65%以上が65歳以上だった。一方、働き盛りの40-64歳の年齢層も全体の約3割を占めている(図2)。

女性の40-64歳のがんが多いのは、この年齢層の乳がんが多いためである。また、女性の15-39歳のがんが男性よりも多いのは、この年齢層の子宮頸がんや乳がんが多いためである。(図3)

その他のほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほどかかりやすい。主ながんの年齢階級別罹患率をみると、男性の胃がんは50歳以上、肺がんは55歳以上、前立腺がんは60歳以上で千人に一人以上が罹患している。女性の乳がんは、45歳以上80歳未満で千人に一人以上が罹患し、子宮頸部の上皮内がんは20歳から40歳代で罹患が多い。一方、子宮体がんは、50歳以上から多くなる。

図2 年齢別内訳(%) (表2-Aから作成)

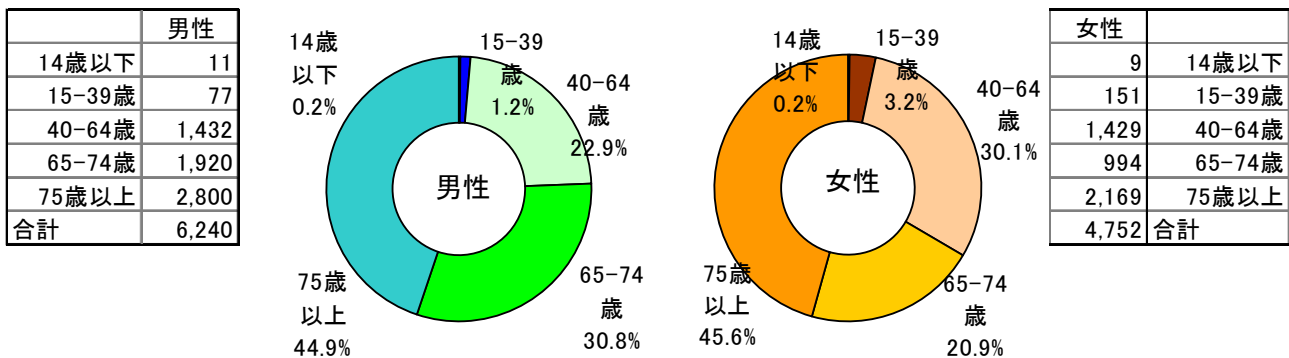
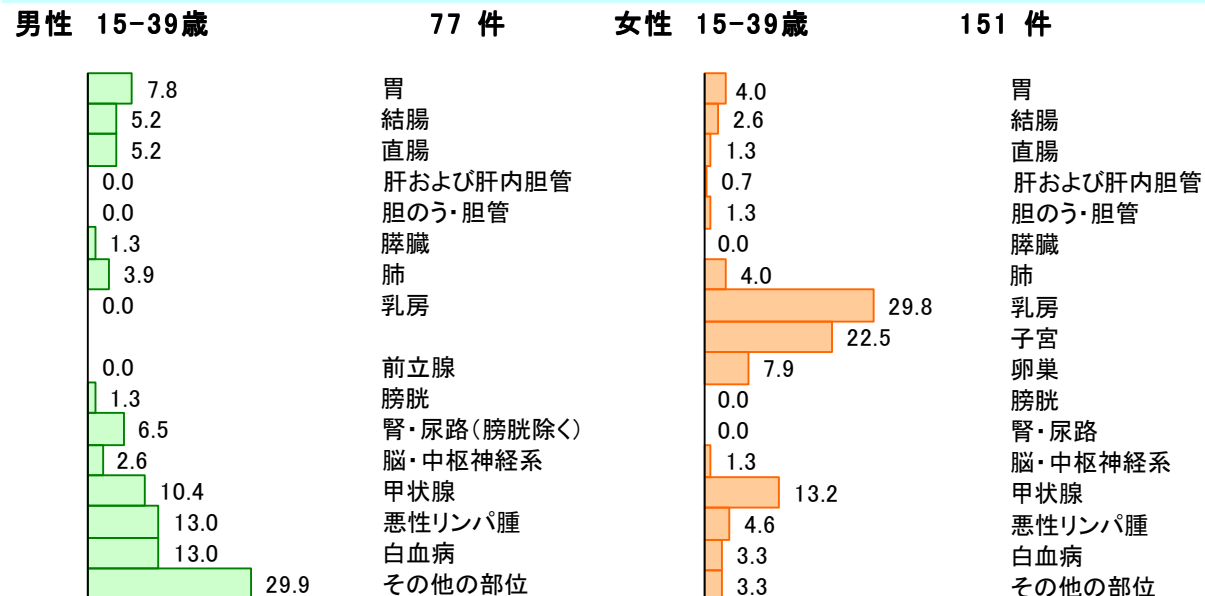
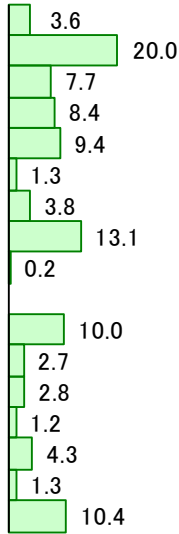


図3 年齢別部位内訳(%) (表2-Aから作成)



男性 40-64歳

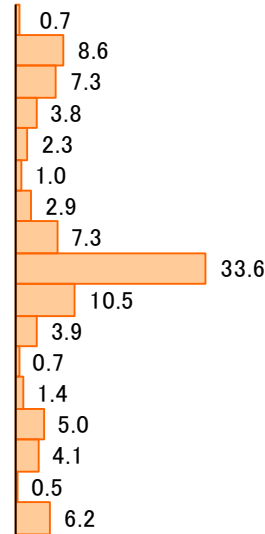
1,432 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路(膀胱除く)
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性 40-64歳

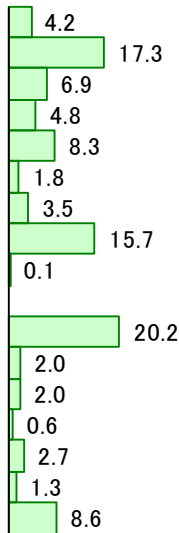
1,429 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

男性 65-74歳

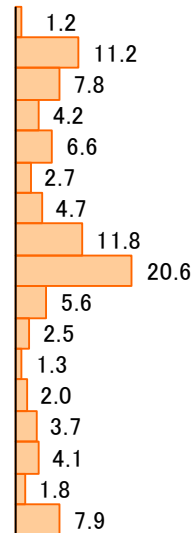
1,920 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路(膀胱除く)
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性 65-74歳

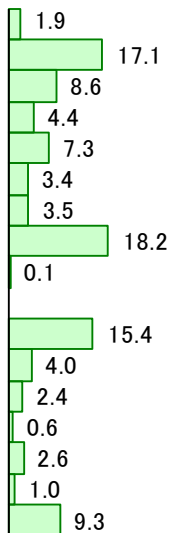
994 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

男性 75+歳

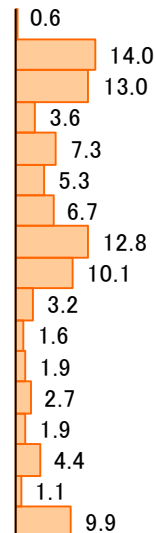
2,800 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路(膀胱除く)
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

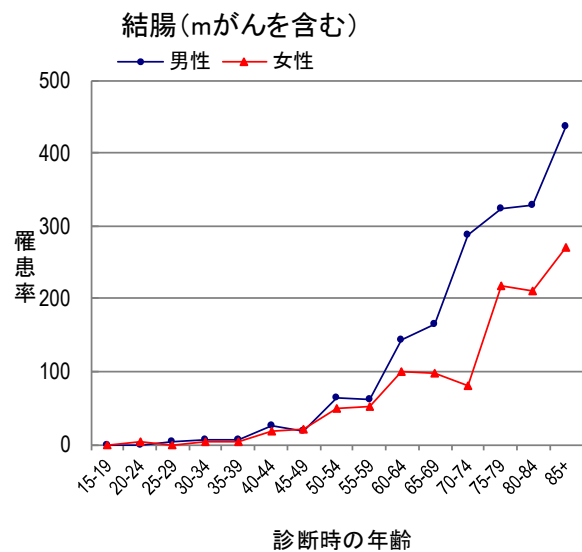
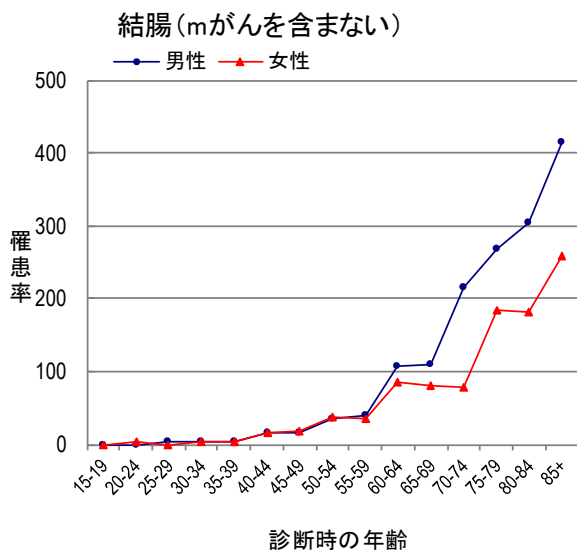
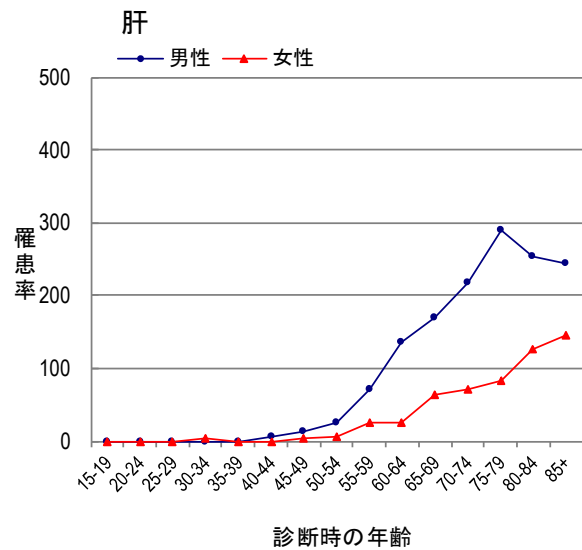
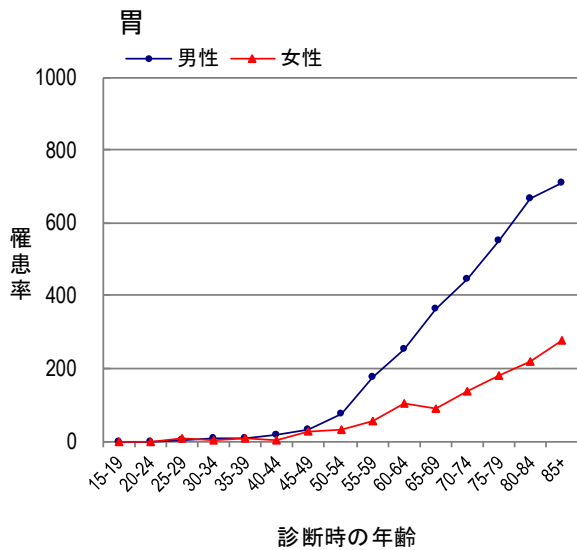
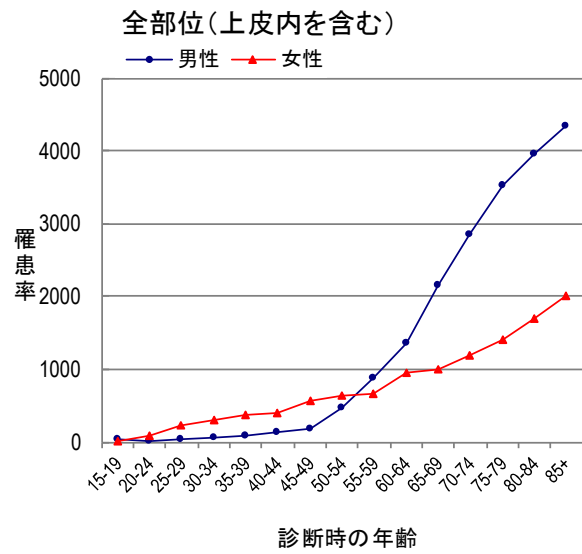
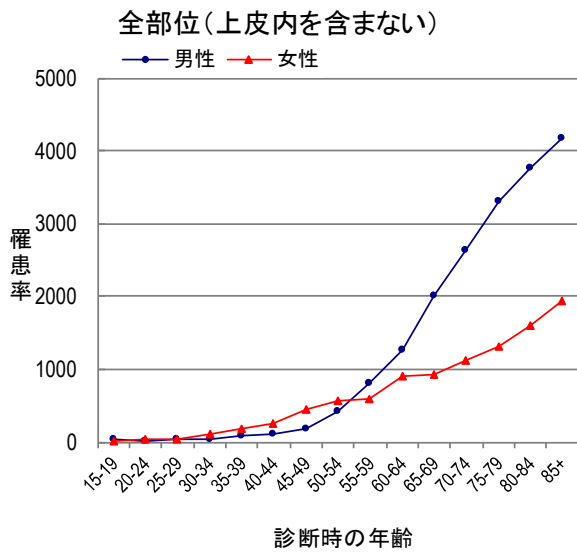
女性 75+歳

2,169 件

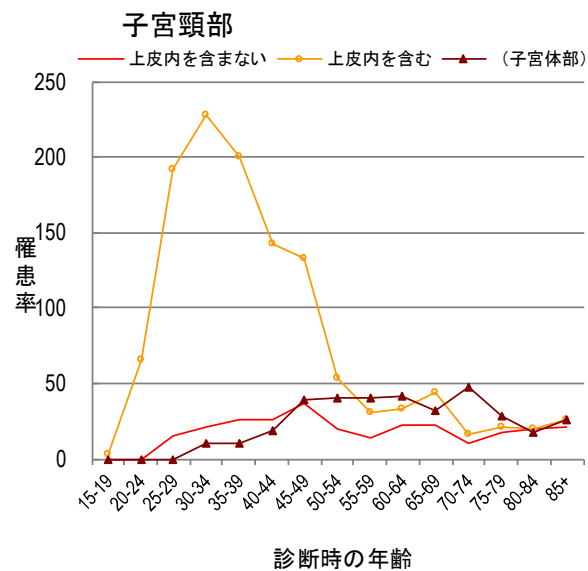
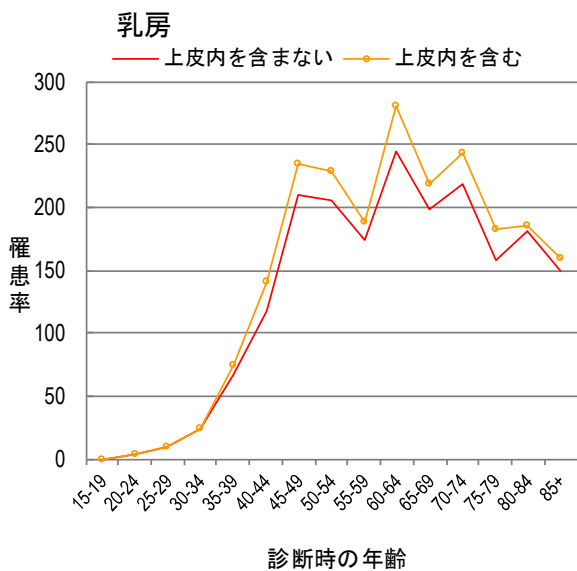
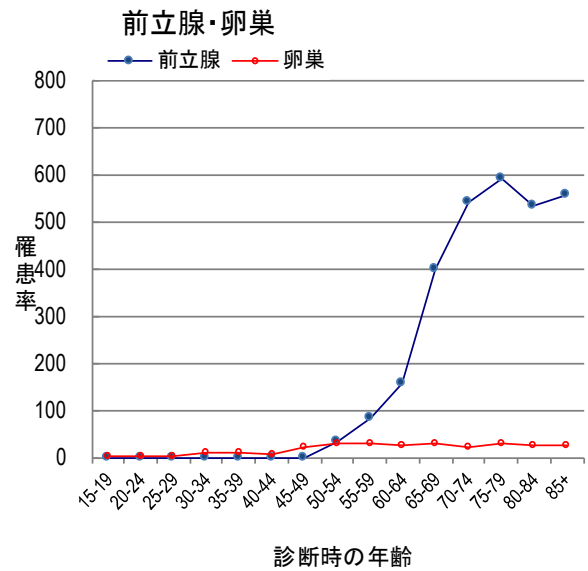
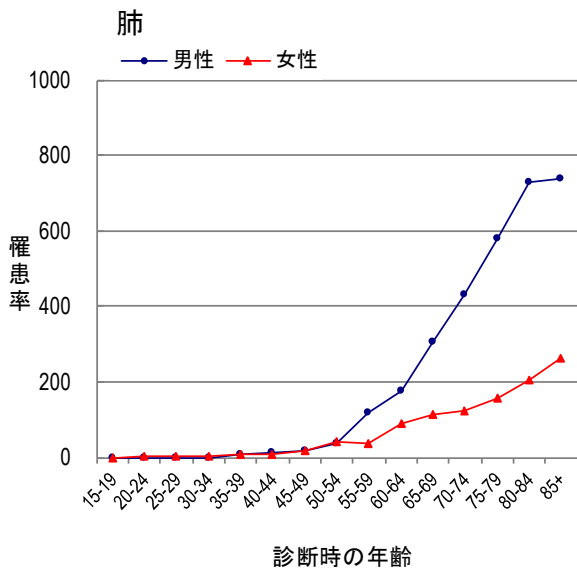
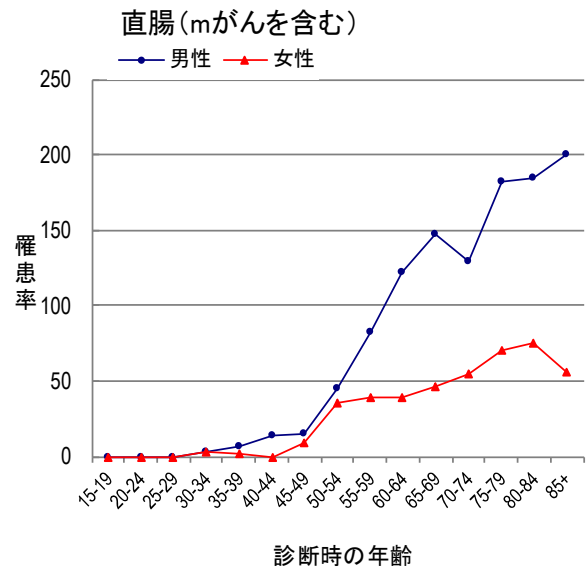
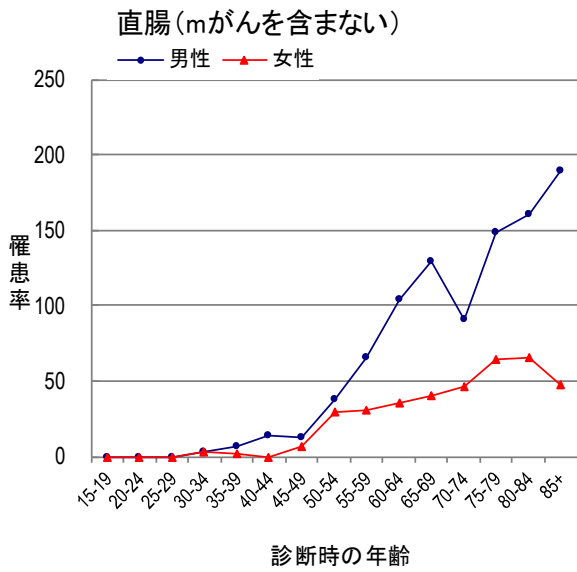


食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

図4 部位別年齢階級別罹患率：人口10万対（表3-A、Bから作成）



注) mがんについて：我が国の地域がん登録では、大腸（結腸及び直腸）の粘膜内がん（mがん）は上皮内がんとして扱う。

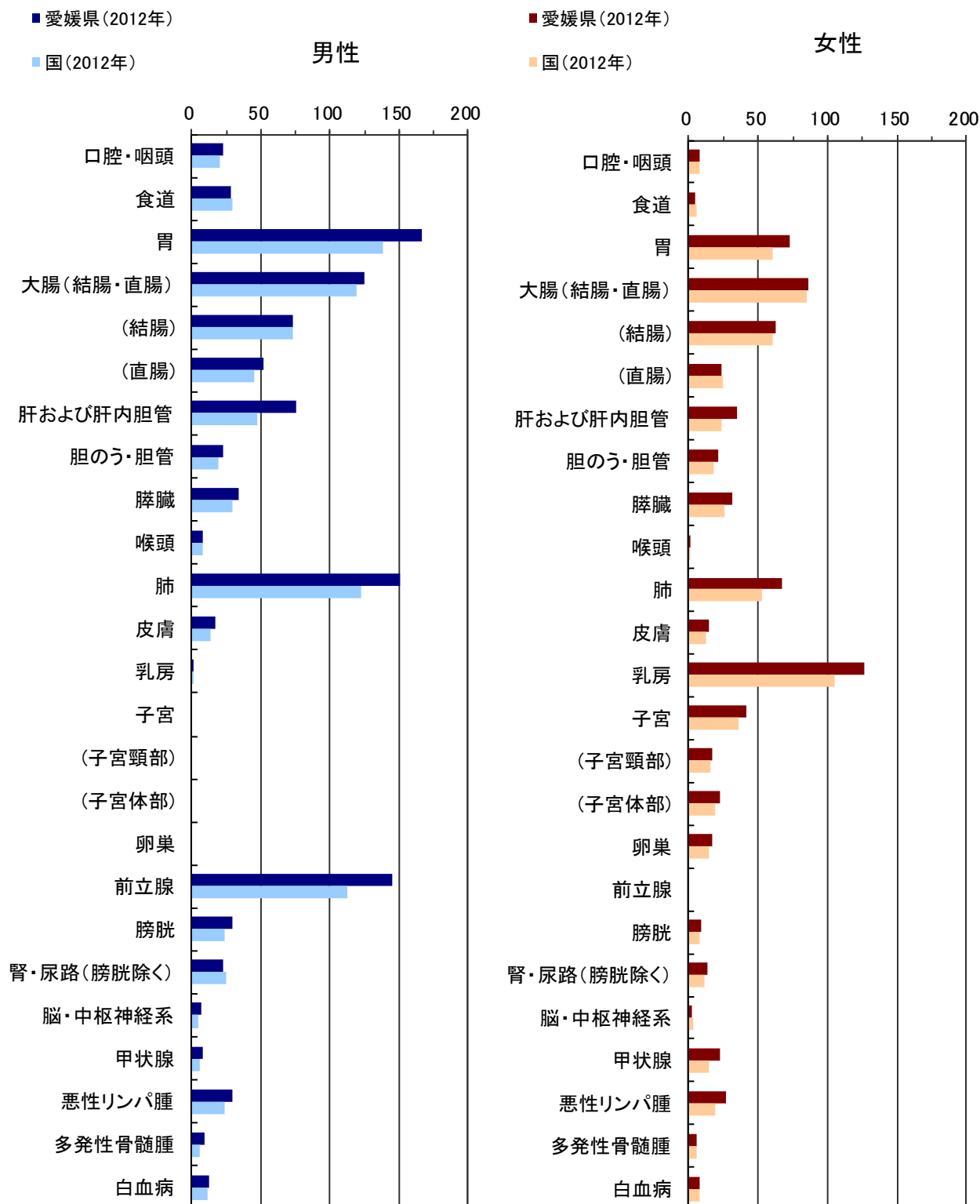


愛媛県のがんの罹患の特徴

ほぼ全ての部位において、日本全体の推計値と比較して罹患率が高い。特に、男女

の胃、肝臓、肺、男性の前立腺、女性の乳房において差が大きい。

図5 部位別がん罹患率：人口10万対（表1-Aから作成）

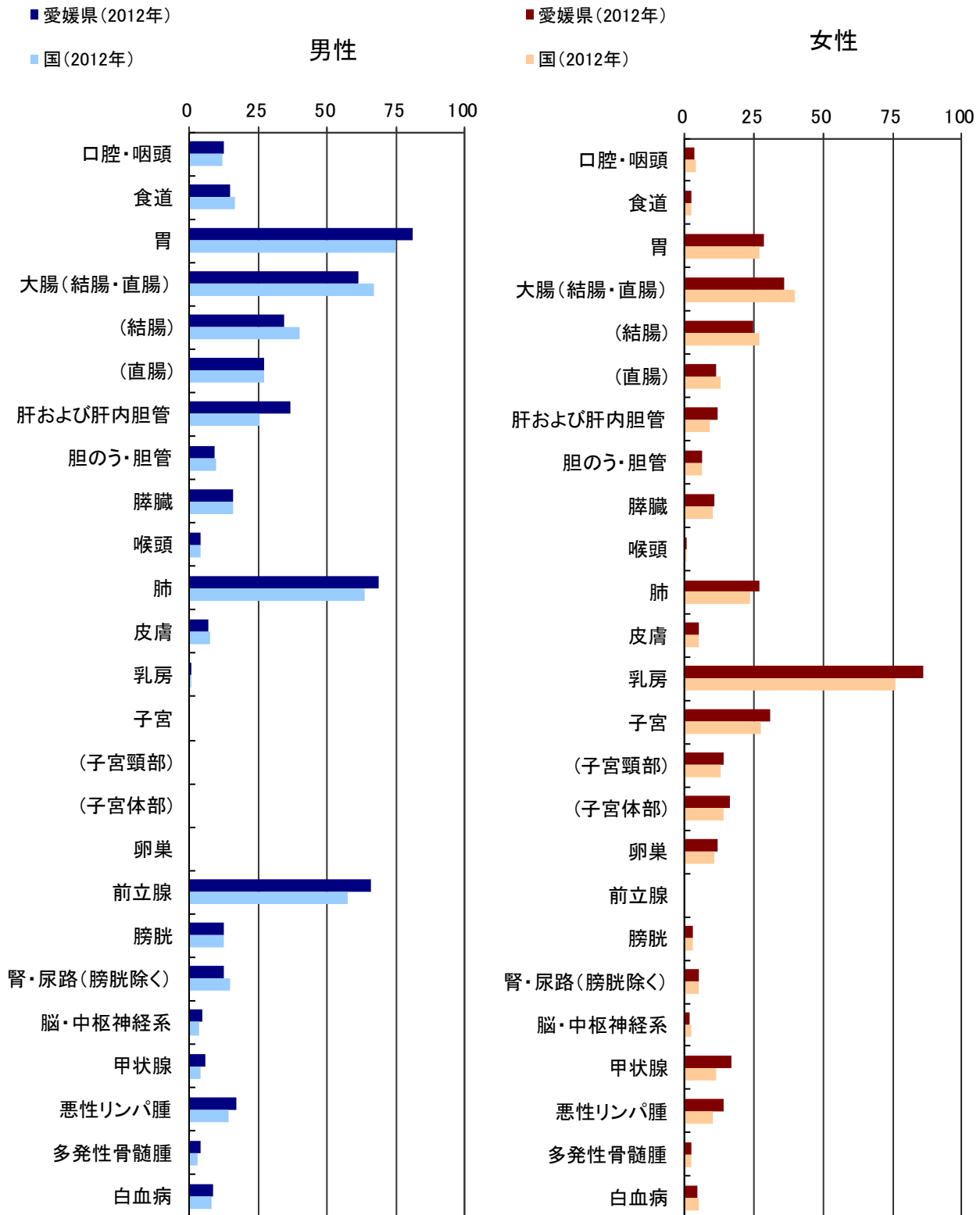


国の値は、がん対策情報センター発行「全国がん罹患モニタリング集計 2012年罹患数・率報告」より引用。

年齢調整罹患率で比較すると、大腸は全国値よりも低く、胃や肺など全国値との差が小さくなる傾向があるので高齢化の影響により粗罹患率が

高いと考えられるが、依然、多くの部位で、愛媛県の年齢調整罹患率の方が高い。

図6 部位別年齢調整罹患率：人口10万対（表1-Aから作成）



国の値は、がん対策情報センター発行 「全国がん罹患モニタリング集計 2012年罹患数・率報告」より引用。

